

▼あなたのことが大好きだから監禁するね♡

2021 カオティックちくわ

「はあい……あ♡ やっと来てくれたんだ～♡
待ってて、今開けるから」

(ユーザーに抱き着く)

「ぎゅう～～……ぎゅう～～～……」

「遅かったから心配したんだよ。
LIME100通以上送ったのに未読だったし……」

(LIME=LINEの事)

「事故にでもあったのかな、とか、
誘拐されちゃったのかな、とか……」

「いっぱい嫌な想像が頭の中グルグルしてたの……」

「……ごめんね、好きすぎて、
いっぱい不安になっちゃうの、だから……」

「今度から遅くなる時は絶対に連絡してね。
じゃないと……ね？」

「うん。ありがと♡ それじゃあ、入ってえ」

「喉乾いたでしょ～。今お茶入れてあげるからね～」

「はい、どうぞ。……あれ、どうしたの？」

「なんでもなくないよ。絶対何かあったでしょ？
いつでもどんな時もきみのこと見てるもん。それくらいわかるよ」

「ほら、ちゃんと話して。何があったの？」

「……え？ 学校で、嫌がらせされた？
……どういうこと？」

「同じクラスの子に……？」

「そっか……また……」

「ね、もう一回ぎゅうってするね」

(ユーザーを抱きしめる)

「……辛かったね。嫌だったね。怖かったね。
でも、もう大丈夫だよ」

「これからは、外の辛い事なんて全部忘れて……
私に愛される事だけ考えて？　ね？」

「……あ、そうだ」

「私、いいこと思いついちゃった」

「これから、君が一番幸せになれる方法……」

「私に監禁されるの」

「つまり今からきみの世界は、この家の中だけ……」

「私、独り暮らしだからさ。
誰にも邪魔されずに、ずっと、ずーっと一緒にいられるね♡」

「もう誰も、きみを傷つける人はいないの」

「心配しないで。私が面倒見てあげるから。
ご飯も、お風呂も、全部全部全部」

「……もちろん、エッチな事も、ね♡」

「ほら……おっぱいも……お、おまんこも……
全部、きみのものなんだよ？」

「これからはきみの精液……わたしのなかに
出してほしいな……♡」

「あ……ふふ♪　ちょっとおつきくなってる」

「我慢しなくていいんだよ……
ほおら、ベッドいこ……♡」

「今日から一緒にこのベッドで寝るんだよ。
それから……エッチなこともいっぱいするの、ふふふっ♡」

「ぎゅうっ……ふふ、あったかい……。
はあう……心臓がドキドキしてるの、わかるよ♡」

「えへへ……私もドキドキしてる？
大好きなきみとエッチなことするんだもん。当然だよお……えへへ♡」

「ねーえ、キスしていい……？
私も、もう……我慢できないかも……♡」

「んちゅっ、ちゅっ……はふっ……んんっ……むあっ……唇やわらかあい♡」

「ちゅっ、ちゅっ……舌も、入れちゃうからね……♡」

んれるっ……ちゅぶっ、ちゅれっ、れろっ……」

「んむあっ……美味しい……♡
んちゅっ、んむうっ、んっ……ちゅっ、ちゅぱっ……」

「はふっ……ずっと、この舌……味わっていたいよお……
ちゅううっ、ちゅっ、んっ……ちゅぶっ、ちゅぷうっ……んっ」

「ああっ……そうだあ……これからは……んちゅっ……
好きな時にキスだって、できるんだったね……♡」

「んむっ……ちゅうっ、ちゅうっ……んちゅうっ……
んれろっ……んはあっ……とろけちゃうっ……んっ、んちゅぱあっ……」

「んあはあ……はあ……キスだけで、気持ちよくなっちゃった……♡
ふふふ、でもまだまだだよ……♡」

「これからもっともっと気持ちよくしてあげる……♡
ん～……次は何しよっかなあ……？」

「そうだ……♡ お耳をぺろぺろしよっか♡
お耳も、立派な性感帯だもんね……ふふっ……いっぱい感じてねえ……♡」

「耳たぶ、あむっ……はむうっ……んむうっ……
あむっ……甘噛みだから、ぞわぞわするでしょお……♡」

「あむっ……んっ……ぷにぷにで可愛い耳たぶ……食べちゃいたいくらい……♡」

「でも、そんなことしたらきみが痛い思いしちゃうから……
我慢するね……♡ ん、ちゅっ……♡」

「お耳の穴も……ぺろっ、ちゅうっ……
ちゅぱっ……んっ……んああっ、れろっ……れるるっ……」

「んはあっ……ふふふっ……身体、びくびくしてるう……
お耳ぺろぺろで、腰砕けになっちゃってるんだあ……かわいい♡」

「ちゅっ……ちゅぶっ……んれるっ……
れろれろっ……ちゅぶあっ……ちゅれろっ……れるるっ……」

「んあああ……♡ なんか硬いのが当たってるよ♡
ほらあ……今私がなでなでしてるとこ……なあに、これ～？ ふふ♡」

「んっ……ズボン越しでも、熱いのがわかる……。
それに、ガチガチで、かたあい……はあ……はああ……♡」

「ふふふ……キスと耳舐めだけで、興奮して勃起しちゃったんだね……♡
私の中に入りたいよ、愛し合いたいよおって、叫んでみたい……♡」

「んっ……はあっ……私も、我慢できないよお……。
もう、パンツがね、濡れちゃってるの……」

「ほら……指で触って確かめてみて……。
んんあっ……くちゅくちゅって音、聞こえる、でしょっ……♡」

「はあ……ああ……はやく、一つになろお……♡
外の嫌なことぜんぶ忘れて……頭の中を、私でいっぱいにして……♡」

「ズボン、脱がせてあげるね……よしよっ……」

「ふわああっ……パンツ、我慢汁で濡れちゃってる……」

「すんすん……はあ……えっちなにおい、する……。
苦しうだから、パンツもはやく脱がせてあげるねっ……んっ、しょっ……」

「ああっ……おちんちん……パンパンに腫れて反りかえってる……♡」

「もう少し我慢してね……今、私のおまんこで楽にさせてあげるからっ……
座ったまんまで、抱っこしあうエッチしようね……♡」

「ふえ……？ コンドーム、着けたいの？ どうして？
……赤ちゃん出来ても、別に私は良いよ？」

「きみとの赤ちゃん、欲しいもん……♡
それに、着けない方がお互いを感じられると思うなあ……♡」

「え……まだ早い……？ んむうう……。
わかったよう。今回は着けてあげる……」

「それに、お楽しみは後にした方がいいかもね……
そうさそうさ、そうだよ、ふふ♡」

「じゃあ……ゴム、着けてあげるからね」

「んっ……空気を抜いて、かぶせて……
根元まで……えいっ……えいっ……」

「はい、おちんちんのお着替え完了♡
うっすらピンク色で、可愛いのに……いやらしい形……んんっ」

「ふふっ、いよいよエッチだね……♡ パンツは脱ぐけど、
制服は着たまんまでいいかな。その方がきみは興奮してくれるよね♡」

（跨がる）

「んっ……じゃあ、入れちゃうよお……。
んっ……んうっ……駄目、きみは手伝っちゃ……」

「私が、入れるのも、動くのも、ぜんぶしてあげるんだから……
んっ、ふっ……ああっ……入って、くるっ……くうっ、ううんっ……」

「んあああっ……太くて、かたあい……あ、あ、ああっ……
はううっ……お腹の中……いっぱい、なっていくううっ……」

「はあ……ああっ……これからは……あんっ
こうやって……んっ、きみのことを独り占めできるんだあ……」

「あんっ……きみは、はふっ……
もうなんにも心配しなくて、いいんだよおっ……」

「24時間……365日……んっ、んっ……愛してあげるからっ……
あんっ、ふ、ああっ……あっ、あ、あっ……」

「はあっ……んっ……ううんんっ……！
膣内(なか)で、ぐんって、おつきくなったあ……」

「あっ……気持ちいいの♡ あんっ……
私のおまんこはっ……きみ専用なんだからねっ……」

「はふっ……ああんっ……一生こうやってっ……
二人っきりでっ……んっ、愛し合えるなんて、しあわせえっ……」

「はあんっ……きみももう、傷つかなくていいしっ……
なんにも心配する必要なんて、ないんだよ、ふあっ、ああんっ……」

「あんっ……んっ……この世界には……
私ときみだけっ……ああっ、ふっ、ああっ……」

「はああんっ……大好きだよおっ……
頭の中から、つまさきまでえっ……んっ、ふあっ……」

「全部全部、愛してるっ…ああっ……
ああんっ、ふ、うっ……んんっ、ああっ……」

「あんっ……いいよっ、気持ちよくなっ……
このままっ……思いつき、射精していいんだよっ……」

「あんっ、あ、ふ、ああっ……んんっ……
きみがイク時は、私も一緒にイってあげるからねっ……」

「んっ、膣がきゅうきゅうって、あんっ……
おちんちん絞ってあげるのっ……んっ、んっ」

「あっ……イクっ……イっちゃううっ……！
んっ、んううっ……私も、もう……！ ああんっ！」

「一緒にっ……んっ、うううっ、あんっ、あ、ああっ！
はあっ、あふっ……んっ、んっ、んっ！」

「イクうううううううううううううううう……！」

「ふっ……ううっ……くっ、んんっ……ああっ……
膣内(なか)でっ……ドクンドクン、波打ってるううっ……！」

「んんっ……んんっ、ああっ……精液っ……
いっぱい出てるんだねえっ……ん、ああっ……」

「はあっ……はあっ……はふっ……んああっ……。
ああ……気持ちよかった……？ うふふっ……よかったあ……」

「んんっ……まだ、繋がってたいけど……
どれくらい出たか……確認したいから、抜いちゃうね……」

「あ……射精したから……
かたあいおちんちんじゃなくなってる……ふふ」

「こぼれないように取らなくちゃね……んっ、んっ……
よし……取れた……♡」

「ねえ、見て……♡ こおんなにたくさん出てるよ……♡
きみの精液で、ゴムのさきっぽ、たぶんたぶんになってる……♡」

「これ……ちゃんと縛って、大切に保存しておかなくちゃ♡」

「捨てるなんて、もったいないよ。
私ときみとの、愛の思い出の一つなんだもん。ね♡」

「ふふふ……二人っきりの生活の始まりだよ。
めんどくさいことは何にも考えなくていいよ♡」

（ちゅっ、は頬にキス）

「死ぬまで、守ってあげるね♡
ちゅっ……ふふっ……大好きだよ……♡」

//トラック2

「お待たせ～♡ ご飯できたよ～♡」

「今日のメニューは、きみの大好きなオムライスです♡
見て見て～。ケチャップでハートいっぱい描いちゃった♡」

「私の分は、まだ作ってないよ？
きみの胃袋を満たして上げることが最優先だもん♡」

「はい、座って～。
私は隣に座っちゃおうと♡ よいしょっ……」

「ん？ 学校行きながら自炊なんて、余裕だよ。
独り暮らししてる時もだいたい家で作って食べてたし」

「それにね、私が作った料理をきみに食べてもらえるなんて……
嬉しくて仕方ないんだもん♡」

「休み時間中も、ずっとレシピ考えてたんだあ……。
うふふっ……すごく幸せな時間だった～♡」

「……ん？ ああ、きみの搜索はまだ続いているみたいだね。
まさか私の家で監禁されてるなんて誰も思わないだろうけど♡」

「もしかして、お家の事が心配？
それとも将来の不安とかあるの？」

「大丈夫だよ♡ きみはただこの家にいればいいの。
お金は私が稼ぐから♡」

「きみはしっかり者で優しいなあ。
そういうところも大好き♡」

「って……早く食べなくちゃ！
せっかくのあつあつオムライスが冷めちゃう！」

「ああん、きみはスプーンなんて持たなくていいの。
だって……私が口移しで食べさせてあげるんだもん♡」

「はい、あーんして待機してくださ〜い♡ ふふっ、かわいい♡
小鳥さんが親鳥からご飯もらうの待ってるみたい」

SE:スプーンのカチャ音

「ふーっふーっ……食べやすいように、
私が噛み噛みしてから口移しするね。あむっ……もぐっ、もぐっ……」

(左に座ったまま正面口移し。口移しの最中は1へ)

「んあむっ……ちゅぼっ……ちゅむっ……んっ……んうっ……。
んれれっ……んあっ……」

「はあい、ごっくん♡ お味はいかがですか？
ふふっ……良かった。きみ好みの味付けにしたんだよ♡」

「それに私の唾液も、良い調味料になってるのかもね〜……♡
ふふふっ、まだまだあるからいっぱい食べてね」

「あむっ……んっ、もぐ、もぐっ……」

「ん……んちゅっ……んむあっ……んう……んっ……
んれろっ……れるうっ……ちゃびっ……じゅれろっ……んぷああっ……」

「はい、ごっくん……ふふっ♡ 赤ちゃんみたい♡」

「……あれえ？ ねえねえ、ズボン、膨らんじゃってるよ。
口移しディープキスで、興奮しちゃったの？」

「まったくもう……しょうがないなあ♡」

「じゃあちよっと、食欲じゃなくて性欲を優先させよっか♡
白いのびゅーびゅーしてスッキリしてからご飯再開ね♡」

「ズボンを脱がせてえ……パンツも、脱ぎ脱ぎ……」

「えへっ♡ おっきいの、出て来たね……
口移しで興奮しちゃったエッチなおちんちん♡」

「う〜ん……どうやって気持ちよくしてあげようかな〜……」

「よし♡ まず……優しくさすさすしてみよっか♡
触れるか触れないくらいそっと握って……上下にしこ……しこ……♡」

「あっ……おちんちん、またおっきくなったよお……
もっと刺激がほしいよーって言ってるんだ……♡」

「でも、焦らしたまんまのしこしこだからね。
んん〜？ だって……溜めてから出した方が気持ちいいもん絶対♡」

「亀さんの部分も……なで……なで……。
ここは棒の部分とは違って、勃起してもぷにぷにして弾力があるんだね」

「親指と人差し指、わっかみたいにして……
亀さんと棒の境目くらいを……しゅっ……しゅうっ……♡」

「あはっ♡ これ気持ちいいんだね～♡
腰、浮いちゃってるよお……♡ しゅっ……しゅっ……♡」

「ああっ……我慢汁溢れてきたあ……
ほらあ……お汁に触って離すと……糸引くよお……」

「はあ……匂いも濃くなってきたね……♡
また棒をそっと握って……上下に……しゅっ……しゅっ……」

「んん～腰がもぞもぞしちゃってるう……。
その切なそうな顔も、大好き……」

「私、きみのどんな表情も……愛しいの。
笑った顔も、怒った顔も……でも……」

「ムラムラして、切なそうなのが……特に大好き……。
はあう……そんな表情見られるの、今世界で私だけなんだね♡」

「もっと見たあい……見せてほしい……♡ だから、焦らして焦らして
焦らしまくって……気持ちよくさせちゃう……」

「しこ……しこ……しこ……しこ……」

「おちんちん、どんどん熱くなってるよ……♡
手が火傷しちゃうぞお……♡」

「はやくイキたいよね……思いつき、射精したいよね……。
ふふっ、よだれ出ちゃいそうなくらい、とろんって口開けちゃって……」

「ちょっとだけ、強めに握ってしごいてあげるね……。
ほら……しこっ……しこっ……ごしっ……ごしっ……」

「ああっ……のけ反っちゃうくらい気持ちいいんだあっ……♡
おちんちんも手の中でびくんって震えたよ……」

「じゃあ、強さと一緒に速度もあげていこっか♡
ごし、ごし、シュツ、シュツ、シュツ……！」

「はあはあしてる……ああん、もう我慢できない？
精液思いつき飛ばしたいの？」

「私も、きみの精液がびゅうってするの、見たいっ……♡
だからもうイカせてあげるねっ♡」

「ぎゅうって握って、ほらっ、しこしこすごい強く激しくしてるよっ
見てっ……私のいやらしい手の動き、見てっ……♡」

「しゅっしゅっしゅっしゅっしこしこしこしこっ……」

あ、あ、あっ……おちんちん、ぐんて硬くっ……もう出そうなんだねっ♡」

「いいよっ、イっちゃえっ……！
思いつきり、えっちに情けなくイっちゃえっ……♡」

「お耳舐め舐めされながら、びゅーってしちゃえっ♡
んちゅっ……れろろっ、れるっ、れるるっ……ほら、ほらほらあっ♡」

「ふ、あああああっ……精液、噴き出してきたああっ……♡
わ、わわあっっ……♡」

「ああっ……まだ……びゅっぴゅって……出てる……♡
はふう……きみの射精……すごおい……いやらしくて……はあ……♡」

「はふ……もう、おしまいかな……？ 絞り出してみるね……んっ、んっ……
あはっ♡ ちょっとじゅうんって溢れてきたあ♡」

「あ……精液たくさん飛んじやったから、オムライスにかかっちゃってる……」

「あん、心配しなくて大丈夫、このオムライスは私が食べるから♡
きみの精液がトッピングされたオムライスなんて、絶対美味しいもん♡」

「……ってというか実はね、このことを予測してたから
自分の分を作らなかったんだよお♡ えへへ♡」

「さてと、新しくオムライス作って上げるね……って、あれ？
今出したばかりなのに……大きいまだだよ？」

「そっかそっか。まだ性欲が収まらないんだあ……♡
じゃあ……」

(テーブルの下に入りエラを始める準備。ここから椅子に座り、マイクの下から)

「いいよ。イライラおちんちんをスッキリさせてあげるね……よいしょっ……♡」

「ふふっ……きみのあつあつビンビンおちんちん……♡
これ以上ないごちそうだよ♡」

「いただきまあ～す♡
んあむっ……んっ……じゅぽっ……ぢゅぶぶっ……じゅれろっ」

「んっ、んぶっ……んじゅうっ……んあっ……
はあ……さっき出たばかりの精液……んれるるっ……おいひい♡」

「じゅぽっ、ぢゅばあっ、んっ……ふっ、んじゅっ、じゅっ、ぢゅっ……
んんんっ、ぢゅぽっ、ぢゅっ、じゅううっ、じゅるうっ」

「んむあっ……はあ……おくちのなかれ……
おおきくっ……んっ、じゅっ……んっ、じゅぽっ、じゅぽっ……」

「んぶあっ……はあ……いきなり激しくすぎちゃったかな？
でも、いったばかりだからすぐには射精しないよね？」

「ふふっ……いっぱい責めて、刺激を与えてあげるね……♡
口の感触、楽しんでくれたらうれしいな♡」

「んあっ、男の子は、裏筋の部分が弱いんだよね？
んれるっ……れろろっ、れるっ、ちゅむっ、ちゅれっ」

「次は亀さんをぱくってして、舌でちろちろもおっ……
あむっ、んちゅっ、れるっ、れろっ、えるうっ、れるるるっ」

「んふふふっ、気持ちよさそうな声出てるねっ……れろっ
ネットでいっぱい調べた甲斐があったよ……男の子が喜ぶフェラの仕方♡」

「んれりゅっ……きみが飽きちゃわないように……んちゅっ
これからもずっと、色んなテクニックを勉強するからねっ……♡」

「今度は、カリの部分、責めちゃおっと♡
んれれう……ちゅぴっ……ちゅぱっ……れろろろ……」

「れろっ……んっ……ちゅうっ……んはあっ……
これも気持ちいいみたいだね……ふふ、わかりやすくて嬉しいよ♡」

「ちろっ……ちゅるっ……ちゅれれっ……んっ……
んちゅうっ……ちゅっ……れろろろっ……れろろろろっ……」

「んふふうっ……可愛い声、出ちゃってるよお？
んれろっ……れるるっ……ちろろっ……れちゅうっ……♡」

「はふっ……お次は、タマタマを口に含んじゃおっと……
んむっ……んじゅぼっ……じゅぽっ……♡」

「んぶあっ……れるるうっ……この中に……
赤ちゃんの種が、つまってるんらね……えるうっ……じゅぼおっ……」

「このタマタマの中から……一滴残らず、
精液搾り取って上げる……♡」

「ちろろっ……れろろっ……れるうう……ちゅっ……
じゅぶぶっ……じゅぼおっ……♡」

「むはうっ……んん～？ もう射精したいのお？
そっか……♡ うん、わかった♡」

「それじゃあ最後は……思いつきびゅうびゅうできるように、
おちんちんずっぽり咥えて、じゅぼじゅぼしてあげるね……♡」

「んあぶっ、ちゅっ、じゅぶっ、ふっ、んんっ、じゅるっ！
じゅぷぶっ、んじゅっ、びゅぼっ、んじゅるるるっ♡」

「んんむうっ……んっ、んっ、んぶっ、じゅぼっ……ちゅっ、ちゅぶぶっ♡」

「んじゅっ、じゅるれっ、れろろっ、じゅうっ……」

ぢゅっ、ぢゅぶっ、じゅぼっ、じゅっ、ぢゅれろっ」

「んむっ……いひそうっ？
ぢゅるうっ、らしてっ……んっ、らしてえっ……」

「じゅぼっ、じゅるうっ……れんぶっ……
のんれあげるううっ……じゅぶっ、んぐっ、んぶっ、じゅぼっ」

「んっ、んっ、んむううううううう～……！？」

「んんっ……んぐっ……んくっ……んっ……んっ……」

「んぶあっ……はあ……はあ……ああ……
すっごい勢いで、口の中に出されちゃったあ……♡」

「びっくりしちゃって、あんまり味わえないまま
全部飲んじゃったよう……もったいないよお……」

「そうだった……尿道に残ってる精液……吸い上げちゃおうと……♡」

「んあむっ、じゅっ、ぢゅっ、んむっ、んじゅううううっ……。
んはああっ……うん……美味しい……♡」

「うん？ どうしたの？ おしっこ行きたくなっちゃった？
じゃあ……私が飲んであげる♡」

「んあむうっ……はひっ、おひっこ……らしていいよ……♡
おもいっひり……れんぶ……らひて♡」

「んぐっ……！ んんんんっ、んぐっ、ごくっ、ごく、んっ！
ふごい、れてるっ……んぶっ、んくっ、んっ……んっ、んくうっ……」

「んじゅっ……んぶあっ……！ はあああ……♡
きみのおしっこって、こんな味なんだあ……！」

「あったかくって、美味しかったよお……のど越しも、さいこお……♡
ごちそうさまでしたあ……♡」

「うんうん……おちんちんも満足そうにしてる♡
よかったあ……♡ ばっちり性欲は満たされたんだね♡」

(テーブルの下から出てくる。椅子も終了)

「それじゃあ、きみのオムライスまた作ってくるね。
今度こそ、一緒にご飯たべよ♡」

「もちろん、口移しで食べさせあいっこだからね♡
えへへへ……♡」

//トラック3

「んん.....ふああ.....朝.....」

「ふふっ.....♡
おはよ♡ 日もきみは、世界一カッコいいね♡」

(ユーザーを抱き締める)

「はい、おはようのハグ♡
ぎゅううっ.....はう.....起きたらきみがいる生活、しあわせ.....♡」

「今日はお休みだから、このままベッドでいちゃいちゃしようね♡
.....まずは、おはようのご挨拶してあげる♡」

「んっ、ちゅっ.....ちゅぴっ.....れるっ.....
ちゅぱっ.....ちゅ、ちゅれろっ.....」

「んふふっ.....朝のぺろぺろだよお.....れろっ、れるるっ.....
ちゅぶっ.....れろっ、ちゅっ.....ちゅぶっ.....」

「んんっ.....朝一のきみのお耳.....おいしいよっ.....れるっ.....。
寝起きでね、フェロモンが、んちゅっ、むわわってしてるのっ.....♡」

「はあ.....もっともっと、舐めなくなっちゃう.....
んれろっ、れるっ、はあっ.....ちゅぶっ、ちゅぱあっ.....」

「れろおっっ.....今日は朝から晩まで、いっぱい.....」

愛し合っちゃおっか……♡」

「そうそう……今日でもう一か月なんだよ。知ってた？
ん？ きみを監禁してから、一カ月目」

「監禁生活も悪くないでしょ？
私は最高だと思うけど、きみは？ どうかな……？」

「〜〜っ！ そ、そっか えへへ……♡
キミにそう言ってもらえると、私……すごくうれしいよ……えへへ〜♡」

「……え？ セックス？ うん♡ いいよ♡ しよ♡
エッチ、しよ♡ あ……今日はちょっとリクエストしてもいいかな？
座って抱っこするエッチするの♡」

「対面座位って言うんだよね。私、あれが一番好きなんだあ♡」

「だって、ぎゅううってしながら繋がれるし、
私が腰ふりふりしてきみのこと、気持ちよくしてあげられるでしょ♡」

(上半身を起こす)

「んっ……ほら、全部脱いで……お互い生まれたまんまの姿になるの♡
ぬぎ……ぬぎっ……ぬぎいっ……」

「ああんっ……朝勃ちおちんちん……すごおい……♡」

「ねえ……私の裸もちゃんと見てえ……
おっぱいも……お尻も、おまんこも、全部きみだけの身体なんだよ♡」

「ふふっ……釘付けになってるね……そう、それでいいんだよ……♡」

「ほら、見て……？ 私のおまんこも、準備万端で、じゅんじゅん疼いてきたあっ……
もう入れていいかな？ いいよね？」

「ねえねえ、今日はコンドームなしでシようよ♡
生のおちんちん、入れて……？」

「きみとの赤ちゃん、欲しいんだ……♡
私の、夢のひとつなの。
だから……ね？
子宮の奥に、精液注ぎ込んでほしいな……♡」

(跨がる)

「んあんっ……♡ 挿れて、くれるの？
私の事、孕ませてくれるのお……？」

「あ、ありがとう♡ きて……きみの勃起した、ビンビンおちんちん……
私のアツアツおまんこの、中に……つつんっ、ううっ、んんっ……！」

「ふ、ああああっ……やっぱりこれえっ……すごく、おっきい……！」

く、ううう……んんっ……！」

「あつ、あ、あふうっ……ああっ……！ 一気に、根本まで……入ったよお……
あああっ……生のおちんちんっ……きもちいいっ……」

「ああんっ……きみの熱が……伝わってくるっ……
おまんこいっぱい、感じるっ……は、う、ああっ……」

「ねえ、キスしよっ……キスしながら、腰ふりふりしてあげるっ……♡」

「んっ……ちゅうっ、ちゅぱっ……んっ、あふっ……
ちゅれっ……んはあっ……はむっ……ちゅ、ちゅっ、んっ……んむあっ」

「はあっ……はあっ……頭、まっしろになっちゃうっ……
上のお口も下のお口もっ……きみと繋がってっ……ああっ……幸せっ……」

「あんっ、んっ……このまま、時間が止まってほしいっ……
全身できみを感じたいいいっ……あ、あっあっ……」

「気持ちいい？ んっ、きみも、気持ちいいのっ？
あうっ、んっ、んああっ……嬉しいっ……嬉しいよおっ……♡」

「きみが感じてくれるとっ……私もっ……
おまんこきゅうきゅうってなって……感じちゃうっ……」

「んっ、んっ……私っ……この一カ月っ……あんっ……
毎日、んんっ……きみと一緒に、過ごしたらっ……」

「一日ごとにつ……好きな気持ちがどんどん深くなってっ、あんっ……
どこまでも続く、深い海の底みたいにつ……あんっ♡」

「ねえっ……んっ、きみは、どうかなっ……？
私に監禁されてっ……あ、あつ、ほんとに、ほんとに、幸せにつ……？」

「ああんっ……うれしいっ……うふふっ♡ あつ、あんっ……♡」

「これからも……全力で、んっ、守ってあげるっ……♡
一生、愛をそそいであげるうっっ……♡」

「ここはっ……二人だけの、深海のお城だよっ……♡
あ、あ、あふあああっ……♡」

「はあんっ……一緒に沈んでいこうねっ……もっともっと深くっ……あ、あつ……
絶対に、んんっ、誰にも見つけられないところにつ……ふふっ♡」

「んっ……ちゅふっ……あふっ……ちゅぴっ……
れろっ、んっ……ああっ……ちゅぱっ……」

「私の、唾液で……きみのお耳がふにやふにやにふやけちゃうくらい……
たくさん……ぺろぺろしてあげるうっ……♡」

「んっ……ちゅっ……はあっ……あつ……ちゅふっ……んんうっ……

ふ、ああっ.....あふっ.....ちゅうっ.....んっ」

「ああんっ.....お耳ぺろぺろするたびにっ.....
おちんちんが、おまんこの中でぴくんっ.....ぴくんっ.....つてするのおっ♡」

「はああっ.....気持ちよくって喜んでるんだねえっ.....♡
あああっ.....もっと喜ばせてあげるうっ.....♡」

「んっ、んっ.....ねえっ、エッチなキスも、いっぱい、しよっ.....♡」

「はむっ.....ちゅうっ.....んっ、れろっっ.....んっ、んふっ.....
んちゅうっ.....れろろっ.....んうっ.....えるっ.....んちゅっ」

「んむうっ.....んっ、んっ.....んぢゅっ.....んはあっ.....
舌っ.....もつと絡ませてえっ.....もつれて、二度と離れないくらいにっ.....♡」

「んちゅうっ.....んっ、れろっ.....んふっ.....んっ.....んん〜っ.....
ちゅうっ.....ちゅぶっ.....ああむっ.....れるるっ.....んちゅううっ.....」

「んふあっ.....ああっ.....きみの舌っ.....おいしすぎるよおおっ.....♡
私だけしか知らないっ味いっ.....んっ、んあっ.....ちゅぶっ.....」

「んんあっ.....はあっ.....ああっ.....あんっ、さいっこお.....♡
もう、我慢できないっ.....きみの全部がほしいっ.....！」

「きみの精液、おまんこで受け止めたいのおおっ.....♡
だからっ.....腰、いっぱい動かしちゃうねっ♡」

「んっ.....はあんっ.....あ、ああんっ、ふ、ああっ！
あ、ああっ、ああっ.....あふっ！ あああんっ.....」

「ひあっ、あんっ.....やあんっ.....すごい感じちゃうっ.....♡
ああっ、あああっ.....奥うっ.....ぐりぐり当たるううっ.....♡」

「んっ、んっ.....出ちやいそうっ？
あんっ.....いいよおっ.....私も一緒にイクからあっ♡」

「はうっ.....んああっ.....赤ちゃんの種っ.....
んっ、ふっ.....ああっ.....いっぱい注ぎ込んでええっ♡」

「ああんっ、あ、ああっ.....イクっ.....イクっ.....
イクよおおっ.....んっ、んっ、んっ.....あんっ.....あああっ♡」

「あああああああああああああああっ.....♡」

「あふっ.....ううっ.....んっ、んっ.....んんん〜.....♡
中出しされながらっ.....イっちゃってるうううっ.....♡」

「あううっ.....ふうっ.....んっ.....はああっ.....ああっ.....♡
奥の奥まで.....あっつい精液っ.....注がれてるの、わかるよおおっ.....♡」

「はあ.....はあ.....はふうっ.....きみとの子作りセックスう.....

本能のまま.....堪能しちゃったあ.....えへへへ.....♡」

「はあ.....はあ.....あふっ.....夢中で、腰ふりふりして.....
んっ.....息が上がっちゃったあ.....ちよつと休憩——」

「ああんっ！？ やっ、やっ、あんっ.....！
ひいうっ.....！ やっ、いきなり突き上げちゃっ.....ひ、いつ、ううっ！」

「やっ、あつ、まだ、足りないのおっ.....？
ああんっ、やっ、それなら私がっ、休んでから動くよおおっ.....！」

「だからっ、んっ、ふっ、あつ、止まってえっ！ まってえっ！
あああんっ.....やあつ.....あ、あ、あつ♡」

「ひううっ！ んっ、ああああつ！
らめっ、らめええっ.....！ イったばかりでっ、そんなにつ.....」

「あ、ああっ、はげしいっ！ んっ、ふ、あああつ！
あひいっ、んっ、あ、あ、あつ！ ううああつ！」

「しゅ、しゅごっ.....ああああつ！ きみって！
そんな激しくパンパンできちゃうのおっ！？ あつ、ふ、あああつ！」

「ひやあつ、ああふっ、ふっ、ひいいいんっ！
そんなっ、たくましいピストンされたらっ、ひっ、いいうんんっ！」

「ああっ、ああっ.....わらしっ.....んっ、ふっ、あああつ.....！
おかしくなっちゃうっ.....おかひくっ.....ひうううっ！」

「あんっ、ああっ、はうっ、んっ、んんっ！
きみのおちんちんっ、あ、あつ、ひいっ！ きもちいいいっ.....！」

「はふううっ、んっ、んっ、ああああつ.....！
し、しんじやうううっ！ あ、あ、あああつ！」

「はうううっ、あああつ、はふっ、ああっ、やああんっ！
あああんっ！ すごっ、すごいいいっ.....！」

「やあああんっ！ こんなエッチされたらっ、あんっ、ふあつ、あああつ！
頭の中ああつ、きみのおちんちんでいっぱいになっちゃうよおおっ！」

「ひっ、うっ、んんっ.....あああつ、あうえっ.....！
イキそうっ、またイっちゃうよおおっ！ あ、あ、あふあつ！」

「きみもイクんだよねっ.....？ ふええっ、まだなのっ！？」

(しがみつく)

「やっ、やだあつ.....！ 一人でイクの、やだよおおっ.....！」

「んっ、んっ、とめれっ！ パンパンとめれえっ.....！
らめええっ！ イっちゃうから、らめらのおおっ.....！」

「あ、あ、あ、あっ……！ ああっ、やあっ……！
イクっ……イクっ！ イクううっ……！」

「んんうううううううううう～……！」

「はふっ……んっ……はあ……はあ……ううう……」

「もおおっ……んんっ……やめてって……言ったのに……
一人でイクの……さみしかったよお……！」

「んっ……はうっ……あんっ……！
やああっ……突き上げっ……またあっ……！？ ふ、ううっ、ああっ！」

「はあっ……あうっ……ひいいいっ……！
敏感おまんこっ……はっ、ああっ、へんになるううっ……！」

「あんっ、ひっ……つつ……んっ……くうんっ……ああっ！
しゅごっ……♡ ああ、あ、あっ……ひっ、いいいっ、うううんっ♡」

「ぱんぱんしゅごっ♡ はっ、あ、あ、うううんっ♡
あうううっ、イキそう？ イキそうなの？ あんっ！」

「あうううっ♡ あんっ、んっ、ふっ、あっ！
わたしもっ、連続イキしゅるっ……今度こそ一緒にイクのっ♡」

「さっきっ、さみしくさせた分っ……
いっぱい精液、びゅうびゅうしなきゃっ、らめらよっ♡」

「はっ、あ、あ、あっ、ああああ～っ♡
きて、きてきてきてきてっ……！ 中出し絶頂、きてえええっ♡」

「あんっ、ふっ、あああっ……やああっ！
わらしっ、んっ、ああっ……お潮、でちやいそおおっ♡」

「はうっ、ううっ……んんっ、子宮口っ、うっ、んんっ！
ガンガン突かれてっ、んっ、ああっ、イっちゃうよおおっ！」

「あ、あ、あ、あっ……イクっ……！
極太おちんちんでっ、イクううう……！」

「ふっあああああああああああああああああっ……♡」

「中出しいい……されながら……ああああっ……あひっ……
潮吹きっ……びゅーびゅーしちやったあああ……♡」

「はあ……はあ……んんっ……はふっ……はああ……」

「はうう……おもらししちやったみたいに……
シーツぐっしよりだよお……♡ んんっ……♡」

「きみの激しいピストンセックス……
きもち……よくてっ……んんっ……やみつきになりそおおっ……♡」

(抱きつく)

「はあ……はあああ……んっ……ぎゅううっ……♡」

「んうっ……はあっ……はううっ……お互い……
汗といろんなお汁で……身体中ぐっしよりだね……♡」

「あああ……部屋中……熱気とエッチな匂いでむわむわ……♡
はあ……ああ……二人だけの幸せ空間……♡」

「ねえ……キスしよっ……♡」

「んう……ちゅうっ……ちゅっ、ちゅぱっ……
ちゅるうっ……はむっ……ちゅっ……れろおっ……」

「ああっ……きみとのキス……最高う……♡
ちゅっ、ちゅぷっ……えるるっ……んじゅっ……んちゅううっ……ちゅぱっ」

「んんっ……はあ……はあ……駄目だあ……
まだまだきみのことが欲しい……私のことも、いっぱいあげたい……」

「ねえ、今日は一日中、エッチしよ……♡
もちろん、ぜえんぶ中出しでね……♡」

「日が暮れるまで……ううん、日が暮れてからも……
ずうっと中出し……私のおまんこがきみの精液でたぶたぶになるくらい……」

「そうしたら、赤ちゃん、出来るもんね、絶対……♡
ああん……もう、子宮がうずいてとまんないよお……♡」

「愛してるよ……永遠に……きみだけを、愛してるからね……♡」